

様式 1

研究報告書（平成 25 年度）

提出者 水野英莉

提出年月日 2014 年 3 月 31 日

【本ユニットにおける研究テーマ】

和文 生殖補助医療が女性の身体に与える影響——生殖ツーリズムと補完代替医療

英文 Impacts of assisted reproduction technologies on women's body:
reproductive tourism and complementary and alternative medicine

【研究のねらいと目的】（600 字程度）

近年、生殖補助医療の技術の進展はめざましく、世界中の不妊に悩む当事者にとって福音となっている半面、その問題点はさまざまな分野から指摘されている。特に女性の身体に着目した場合、治療を受ける当事者の肉体的・精神的・金銭的負担の重さは既によく知られているところである。最近では第三者の関わる卵子提供や代理出産といわれる治療は、国内で受けることが困難なため、アジア各地へ渡航し現地の医療機関等で妊娠・出産をする人が少なからず存在することが明らかになり、経済的な格差を利用しての生殖ツーリズムには、労働の搾取、女性身体の商品化、医療事故や契約に関するトラブルなど、様々な問題が潜在していると言われている。

本研究では、生殖補助医療の進展が社会に与える影響や問題点について、女性の身体への影響という切り口で、この問題を整理検討することを目的とする。また、この点は従来ほとんど議論されることがなかったが、医療のみならず、これに関連して形成されている巨大な市場についても着目し、女性の身体を対象に行われる補完代替医療の実態とそこで語られる言説等についても明らかにしていくこととする。

議論が多岐にわたり、またその蓄積も膨大な分野であるため、研究初年度である今年、こうした日本国内外の現状について、参与観察による情報収集や、メディアや先行研究を幅広く情報収集・検討したうえで問題点の整理を中心的に行うことを目的とし、次年度以降にその成果の一部を報告しつつ研究継続を目指すこととする。

【調査・研究】

- ① 2013 年 4 月 6 日（土）・7 日（日）生殖テクノロジーとヘルスケアを考える研究会主催 公開報告会「グローバル化時代における生殖技術と家族形成」に参加（立命館大学衣笠キャンパス）
- ② 2013 年 6 月 28 日（金）身体・性・生命・科学におけるジェンダー問題研究会 定例研究会に参加（公益財団法人 東海ジェンダー研究所）
- ③ 2013 年 9 月 15 日（日）Miracle Baby 代表 石原理子氏と面談（Miracle Baby 社）

- ④ 2013年11月15日(金)・16日(土)第58回日本生殖医学会学術講演会に参加(神戸ポートピアホテル)
- ⑤ 2013年11月9日(土)身体・性・生命・科学におけるジェンダー問題研究会において講演会「生殖技術と非血縁的親子関係ー当事者調査から見えること」を企画・開催(一般公開)し、講師として白井千晶氏を招聘(公益財団法人 東海ジェンダー研究所)
- ⑥ 2014年2月5日(水)NPO法人Fine代表 松本亜樹子氏に同行し、自民党政務会長 野田聖子氏と面談(自民党本部)
- ⑦ 2014年3月1日(土)Divine Spark Yoga主催 Wendy obstler氏のFertility Yogaに参加(Beverly Hills Posture)
- ⑧ 2014年3月3日(月)Divine Spark Yoga主催 Wendy Obstler氏のクラスに参加(Divine Spark Yoga社)、Obstler氏のプライベート・コミュニティに参加(Divine Fertility Support)
- ⑨ 2014年3月23日(日)第22回岡山生命倫理研究会に参加(岡山大学)
- ⑩ その他、卵子提供に関わる当事者の集会等への調査アクセス

【成果の概要】(800字程度)

今年度の成果は、今後の継続的な研究の基盤となる情報収集、先行研究の整理・検討として位置付けた、研究初年度としての成果である。以下、3点に述べるとおりである。

第一に、研究調査上の鍵となるデータソースへのアクセスを探索し、開始した点である。上記【調査・研究】で示した③、⑥、⑦、⑧、⑩がこれにあたる。不妊当事者や卵子提供当事者、仲介業者、心理カウンセラー、ヨガ指導者、その他関係者へのアクセスが含まれている。参与観察が可能となった対象には、それを開始した。これらは今後行う予定のインタビュー調査の予備調査でもある。

第二に、生殖補助医療関連の情報を収集し、意見交換した点である。上記【調査・研究】で示した①、②、④、⑨がこれにあたり、医療、生命倫理、社会学、ジェンダー等の研究成果を収集、関係者と意見交換をした。

第三に、この問題を一般社会にも公開し、情報を共有、また問題提議した点で、上記【調査・研究】で示した⑤がこれにあたる。この講演会は一般参加も可能な会として企画・開催した。当日は職種や年齢さまざまな人々が集まって、活発な意見交換がなされた。

最後に、次年度の報告予定を以下に示す。これらは今年度の成果の一部を学会大会において報告するものであり、すでに当該学会によって受理されている。

- ・ International Working Group on Women and Sport 主催、6th World Conference において、ポスターセッション報告(Women doing Yoga for fertility treatment in Japan)(June 12-15 2014, Helsinki, Finland)
- ・ 日本スポーツとジェンダー学会主催 第13回学会大会 分科会「女性の身体と健康ーヨガの身体実践から考える」企画・開催

【通信欄】